

## 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8289
担当部課名	生涯学習部	青少年	課	
事務事業名	青少年団体育成用具整備費補助金		事業コード	14210

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第4章	人間性豊かな子どもを育成します	事業開始年度
基本施策名	第2節	青少年の健全育成	8
施策名	第1施策	青少年活動の促進	▼年度

## 2 実施根拠及び関連法令等

相模原市補助金等に係る予算の執行に関する規則、青少年団体育成用具整備費補助金交付要綱

## 3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
青少年団体に対し、青少年の健全な余暇活動を推進するため、利用効果の高い育成用具の整備に要する経費の一部を補助する。		青少年団体	
		対象数	240団体
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金交付団体 45団体 (補助金交付額 1,241千円)</li> <li>補助金予算額 1,400千円</li> <li>補助金限度額 30,000円</li> <li>補助率 2分の1</li> </ul>		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度～年度

## 4 評価指標

指標名	青少年団体の利用率	補助金の交付率	
指標式	交付団体数 / 交付団体予定数 × 100 (交付団体予定数：予算額 / 30,000円)	補助金交付額 / 団体決算額 × 100	
指標設定の意図	団体の利用率により成果を表す	実質補助率により成果を表す	

## 5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	92.1	79.2	a 96.4	b 100.0	100.0	
指標	26.7	34.8	c 36.2	d 50.0	50.0	
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	1,266	1,060	1,241	1,400	1,400
	人員・時間数	86H	74H	90H	93H	93H
	人件費	360	310	377	389	389
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	1,626	1,370	1,618	1,789	1,789
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか														
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 84.4%												
	B:一部達成していない(100%> 80%)													
	C:達成していない (80%> )													
a	96.4	b	100.0	$\times 100 = 96.4\%$	c	36.2	d	50.0	$\times 100 = 72.4\%$	e		f		$\times 100 =$
理由:	青少年団体が240団体ある中で年間約45団体の利用であるが、予定利用団体数では達成している。しかし、補助率を見ると数値が低く団体の負担は多い。													

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 B ▼	A:適応している	理由:	団体活動を促進する上では、個人負担の軽減を図る必要がある。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由:	補助率は2分の1補助であるが、団体の決算額を見ると3分の1程度の補助額となっており妥当といえる。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 B ▼	A:代替の可能性ない	理由:	補助制度がなくなると、団体の共通用具などが全て団体負担となり個人負担が多くなるため、団体活動を支援する面からも代替の可能性は低い。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A:満足できる	理由:	1団体3年に1回の補助対象制度は、長すぎるという意見がある。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由:	青少年団体の支援は、青少年健全育成の施策としては重要である。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<b>説明:</b> 子ども会等の加入率が減少している中では、青少年団体の支援は積極的に行う必要がある。
	コスト改善余地	
	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<b>説明:</b> これ以上、補助率、補助額を圧縮することは困難。

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	青少年団体の支援は、各自治体とも様々な支援策を展開している。
	今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	説明	各地域の青少年団体は、予算が各個人の負担で運営されているため、市からの支援は重要であり、今後も継続して青少年団体を支援する。
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

・「補助金のあり方の見直し」の中で検討すべき。